

消防年報

平成28年版

第61号



シンボルマーク 「ファイ太くん」

瀬戸市消防本部

はじめに

平成27年は、阿蘇山や口永良部島の噴火、大型台風の列島縦断、また、関東・東北豪雨による利根川水系鬼怒川の氾濫など、数多くの自然災害に見舞われた1年でもありました。

また、平成28年4月に発生した熊本地震では、2度にわたる震度7の強い揺れにより、同地域一帯が甚大な被害を受けるなど、自然災害の脅威を目の当たりにし、自然災害に対する防災・減災の重要性を再認識させられました。

これから迎える超高齢化社会などの様々な社会的背景から見ても、このような大規模かつ広域的な災害に対しては、防火防災関係機関や地域の枠組みを越えた協力体制を確立することが、防災・減災のためには必要不可欠であると言えます。

本市はこれからも、消防力及び消防体制の充実強化に努め、火災などの災害を未然に防止するだけでなく、自然災害への万全の備えによって、安全・安心が実感できるまちづくりに全力を挙げて取り組んでまいります。

この年報は、平成28年4月1日現在における消防体制並びに、平成27年中の災害状況等を収録し、今後の消防行政の効率的な運営と消防力の強化に資するとともに、消防事情を一般に紹介することを目的に編集したものです。

消防関係者はもとより、市民一人ひとりにこの年報をご活用いただければ幸いです。

平成28年10月

瀬戸市消防本部


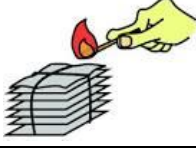
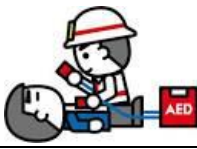

一 目 統 計




平成28年4月1日現在

面積・人口等 自然環境	面積	人口	世帯	気象(H27年中) P49
				
	111.40 km ²	130,676 人	54,388 世帯	年平均気温 16.0℃ 年平均湿度 71.5 % 年間降水量 1,557 mm

消 防 予 算 構 成 人 員	消防予算 P1	署所数 P5	職員数 P6	団員数 P7
				
	12億9,335万円 市民一人当たり 9,897円	消防本部 1 消防署 1 分署 2	123人 (内女性2人)	253人 (内女性18人)

消 防 車 両 水 利	ポンプ車等 P5	特殊車両等 P5	救急車 P5	水利 P16
				
	タンク車3台 ポンプ車4台	はしご車等14台	高規格救急車4台	消火栓 2,954基 防火水槽等 527基 (その他の水利を含む)

災 害 件 数 (H27年中)	火災 P26	主な火災原因 P27	救急 P36	救助 P44
				
	31件 出火率2.4件/万人	たばこ4件 こんろ4件 放火・放火の疑い3件 火あそび3件	出動件数5,360件 搬送人員5,073人	出動件数72件 救助人員39人

予 防 消 防 関 係 団 体	防火対象物 P17	査察実施率 P18	危険物施設 P20	消防関係団体 P22-24
				危険物安全協会 331会員 自衛消防連絡協議会 16事業所 婦人防火クラブ 10クラブ 少年消防クラブ 30クラブ 幼年消防クラブ 26クラブ
	4,573件	16.4%	製造所 1件 貯蔵所 225件 取扱所 112件	

平成27年度目標達成指標

指標	単位	基準値	目標値	実績値
出火率	件	5.2	4.1	2.4

※ 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいう。

(P 2 6 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
救命率	%	20.0	25.0	40.0

※ 救命率とは、目撃のある突然心肺停止及び除細動が必要な心電図波形（V f ・ V T）である救急患者のうち、1か月後に社会復帰できた割合をいう。

(P 4 2 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
消防団員数	人	228	268	247 ※

※ 平成28年3月31日現在（4月1日現在253名）

指標	単位	基準値	目標値	実績値
消防水利の充足率	%	98.0	98.6	98.6

(P 1 6 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
火災による損害額	千円	120,601	107,900	26,840

(P 2 6 参照)

平成27年度のトピックス

1 火災発生件数が2年連続で減少し、過去最少に！！

平成27年中に瀬戸市で発生した火災は31件で、過去最少であった平成26年からさらに12件減少し、昭和45年から記録を始めて以来、最も少ない火災件数となりました。

火災が減少した理由としては、防火パトロールや、放火されない環境づくりなどによって、放火による火災が6件減少したほか、たばこによるものが4件減少したためです。

しかし、全国的にも件数が多い、放火、たばこ、コンロによる火災の防止対策を継続するとともに、住宅火災による高齢者の死傷者が多いことから、高齢者に対する住宅防火対策に取り組む必要があります。

2 消防署指揮車両を更新

平成12年から運用していた消防署の指揮車両を、より高機能な最新の車両に更新しました。

新型車両は、災害現場でも視認しやすいように蛍光色で塗装され、車両上部にはLED表示ボードを備えるほか、ワンタッチで展開可能な移動式指揮機やヘルメット装着型のビデオカメラなどの最新機器を備えています。



3 高規格救急自動車を更新

平成17年から東分署で運用していた高規格救急自動車を、年々高まる救急需要に対応するため、最新の車両に更新しました。

新型車両は、最新鋭の高度救急資機材を備え傷病者に対して、最適な応急手当を行うことが可能となります。



4 阪神タイガース伊藤選手を瀬戸市消防団応援サポーターに任命

瀬戸市出身で、現在、プロ野球阪神タイガースで活躍する伊藤隼太選手を、瀬戸市消防団応援サポーター第2号に任命しました。

今後は、初代応援サポーターである、シンガーソングライターの佐藤 梓さんとともに、全国的に減少傾向にある消防団員確保のため、伊藤選手に一役担っていただくこととなりました。



5 瀬戸市消防団大学生等活動認証制度の運用開始

消防団活動に取り組んだ大学生等に対し、地域社会への貢献を市が認証し、就職活動の支援を行うことにより、消防団員への入団を促進し、地域防災力の向上に繋げることを目的に、平成27年5月1日から瀬戸市消防団大学生等活動認証制度の運用を開始しました。



6 山口分団詰所が完成し、新鋭車両2台を配備

平成28年度から新設される山口分団の詰所が瀬戸市大坪町に完成し、最新鋭の分団車両2台（CD-I型ポンプ車、多機能型搬送車）を配備しました。

新設の詰所は、消防分団の詰所とは思えないほどモダンな外観で、必要にして十分な活動用資機材を備えるほか、地域住民も利用できるような会議室を設けています。



目 次

【第1編】消防情勢（P1～10）

・5年間の市当初予算等と消防費	1
・平成27年度一般会計当初予算額	1
・平成27年度消防費の市民負担額	1
・消防本部・消防署・消防団組織図	2
・消防本部消防課の事務分掌	3
・消防署の事務分掌	4
・消防力の整備指針と現有消防力	5
・消防職員数	6
・消防団員数	7
・消防職員・団員数の推移	7
・消防職員・団員の平均年齢の推移	7
・消防職員派遣教養科目別実施状況	8
・消防職員研修実施状況	8
・消防職員・団員公務災害等発生状況	8
・消防本部車両運用状況	9
・消防団活動状況、ガンバレ消防団応援事業所	10

【第2編】消防施設（P11～16）

・消防庁舎等設置状況	11
・消防車両等配備状況	12
・主な消防機器保有状況	14
・水防用資機材備蓄状況	15
・消防水利設置状況	16

【第3編】予防（P17～25）

・連区別防火対象物状況	17
・中高層建築物・地階用途別状況	18
・査察実施率の推移	18
・防火管理者選任状況	19
・防火管理講習実施状況	19
・危険物施設等連区別設置状況	20
・危険物施設に関する申請等の件数	20
・危険物施設等の10年間の推移	21
・消防関係団体	
・瀬戸市危険物安全協会	22
・瀬戸市自衛消防連絡協議会	22
・瀬戸市婦人消防隊連絡協議会	23
・瀬戸市少年消防クラブ連絡協議会	23
・瀬戸市幼年消防クラブ	24
・防災会	24
・わんわん消防隊、救急安心たまご	25

【第4編】火災統計（P26～35）

・平成26年中の火災発生状況と前年との比較	26
・原因別・用途別火災状況	27
・初期消火実施状況調	27

・ 出火原因別（発火源・経過・着火物）火災発生件数	28
・ 署所別・連区別火災状況	29
・ 曜日別・月別火災状況	30
・ 天候別火災状況	30
・ 時間別火災状況	31
・ 10年間の火災状況	32
・ 10年間の出火件数と住宅火災件数及び損害額の推移	32
・ 10年間の住宅火災の状況	33
・ 10年間の住宅火災における出火原因別件数	33
・ 10年間の住宅火災における時間別死傷者数	34
・ 10年間の住宅火災における年齢別死傷者数	34
・ 10年間の主な火災	35

【第5編】救急・救助統計（P36～45）

・ 事故種別救急出動件数及び搬送人員	36
・ 署所別救急出動件数	37
・ 連区別の老年人口率と救急搬送率	37
・ 曜日別・月別救急出動件数	38
・ 時間別救急出動件数	38
・ 傷病程度別搬送人員	39
・ 年齢区分別搬送人員	39
・ 急病にかかる疾病分類別搬送人員調	40
・ 事故種別医療機関別搬送人員調	40
・ 救急隊員の行った応急処置状況	41
・ 応急手当普及啓発実施状況	41
・ 救命率の推移	42
・ バイスタンダーCPR実施状況	42
・ AEDステーション認定事業所数	42
・ 10年間の現場到着平均所要時間の推移	42
・ 10年間の救急出動件数	43
・ 急病・交通・一般負傷の出動件数10年間の推移	43
・ 事故別救助出動状況	44
・ 連区別救助出動件数	44
・ 発生場所別救助人員	45
・ 10年間の救助出動件数	45

【第6編】通信・気象（P46～49）

・ 消防指令センターの主な施設状況	46
・ 月別119番受信状況（受信時の種別）	46
・ 無線施設状況	47
・ 月別気象状況	49
・ 天候別日数調・月別気温状況・月別湿度状況	49

【第7編】資料（P50～54）

・ 消防本部の沿革	50
・ 消防相互応援協定	54

市 勢 概 要

瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100～300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちで、「せともの（瀬戸物）」という言葉が、やきものの代名詞として広く知られています。

良質で豊富な陶土に恵まれたこの地で、先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せとものまち」を発展させてきました。

長年受け継がれてきたやきものづくりの卓越した技は、多種多様なやきものづくりに繋がり、陶器と磁器が共存する稀有な産地であるだけでなく、ノベルティ（置物・装飾品）、ファインセラミックスなどが生産され、今も新しいものづくりが続けられています。

年別	項目	変 遷	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯
昭和 4 年		市 制 施 行	28.01	31,276	6,916
昭和26年		水野村合併	50.67	54,779	11,670
昭和30年		幡山村合併	71.36	64,681	13,588
昭和34年		品野町合併	110.34	79,449	16,636
平成28年		4月1日現在	111.40	130,676	54,388

